

瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2016.9.30 時点)

分類		保管場所	保管方法	エリア境界 空間線量率 (mSv/h)	保管量※1		前回報告比※2 (2016.8.31)		変動※3 理由	エリア 占有率	保管量／保管容量 (割合)	トピックス
瓦礫類	屋外集積 (0.1mSv/h以下)	B	屋外集積	0.01	2,500	m ³	+700	m ³	①②③	77 %	130400 / 181200 (72%)	・フランジタンク解体片 エリアPにて一時保管中。(2015年6月15日～) 2016年9月末時点で307基(コンテナ)保管。 ・エリアCの焼却可燃物 リスク低減の観点から容器収納しエリアPにて一時保管中。
		C	屋外集積	0.01未満	51,600	m ³	-1,600	m ³	②③④⑤	82 %		
		F	屋外集積	0.01未満	5,900	m ³	0	m ³	—	79 %		
		J	屋外集積	0.02	4,300	m ³	0	m ³	—	89 %		
		N	屋外集積	0.01	4,500	m ³	0	m ³	—	45 %		
		O	屋外集積	0.01	26,200	m ³	0	m ³	—	95 %		
		P	屋外集積	0.01	34,700	m ³	+2,100	m ³	①②	54 %		
		U	屋外集積	0.01未満	700	m ³	0	m ³	—	100 %		
	シート養生 (0.1～1mSv/h)	D	シート養生	0.01	2,600	m ³	0	m ³	—	88 %	37100 / 57300 (65%)	・エリアE、エリアPの瓦礫類について、リスク低減の観点から 容器収納へ移行中。
		E	シート養生	0.02	7,500	m ³	+1,500	m ³	③④	47 %		
		P	シート養生	0.02	6,000	m ³	-100	m ³	⑥	67 %		
		W	シート養生	0.03	21,000	m ³	微減	m ³	—	72 %		
	覆土式一時保管施設、 仮設保管設備、容器 (1～30mSv/h)	L	覆土式一時保管施設	0.01未満	12,000	m ³	0	m ³	—	100 %	20300 / 27700 (73%)	・覆土式一時保管施設(第3槽) 瓦礫類収納完了：2015年8月21日 仮覆土：2015年10月26日完了
		A	仮設保管設備	0.25	1,700	m ³	微減	m ³	—	24 %		
		E	容器※4	0.02	300	m ³	0	m ³	—	19 %		
		F	容器	0.01未満	600	m ³	0	m ³	—	99 %		
	Q	容器	0.1	5,700	m ³	0	m ³	—	93 %			
	固体廃棄物貯蔵庫	固体廃棄物 貯蔵庫	容器※4	0.02	7,500	m ³	+100	m ³	①③⑦	63 %	7500 / 12000 (63%)	・主な瓦礫類は、1～3号機建屋で発生した高線量瓦礫類。
合計(ガレキ)					195,400	m ³	+2,600	m ³	—	70 %		
伐採木	屋外集積 (幹・根・枝・葉)	H	屋外集積	0.01未満	14,700	m ³	0	m ³	—	74 %	70200 / 81500 (86%)	・工事により発生した幹・根を随時受入中。
		I	屋外集積	0.01	10,500	m ³	0	m ³	—	100 %		
		M	屋外集積	0.01未満	39,500	m ³	+200	m ³	⑧	88 %		
		V	屋外集積	0.03	5,500	m ³	0	m ³	—	92 %		
	一時保管槽 (枝・葉)	G	伐採木一時保管槽	0.01未満	8,500	m ³	0	m ³	—	65 %	19600 / 24900 (79%)	
		T	伐採木一時保管槽	0.01未満	11,100	m ³	0	m ³	—	94 %		
合計(伐採木)					89,800	m ³	+100	m ³	—	84 %		
保護衣	屋外集積		容器	0.02	68,300	m ³	+1,200	m ³	⑨	96 %	68300 / 71200 (96%)	・雑固体焼却設備の運用開始(2016年3月18日) ・使用済保護衣等焼却量 744t(2016年9月末累積) ・焼却灰のドラム缶数 112本(2016年9月末累積)
合計(使用済保護衣等)					68,300	m ³	+1,200	m ³	—	96 %		

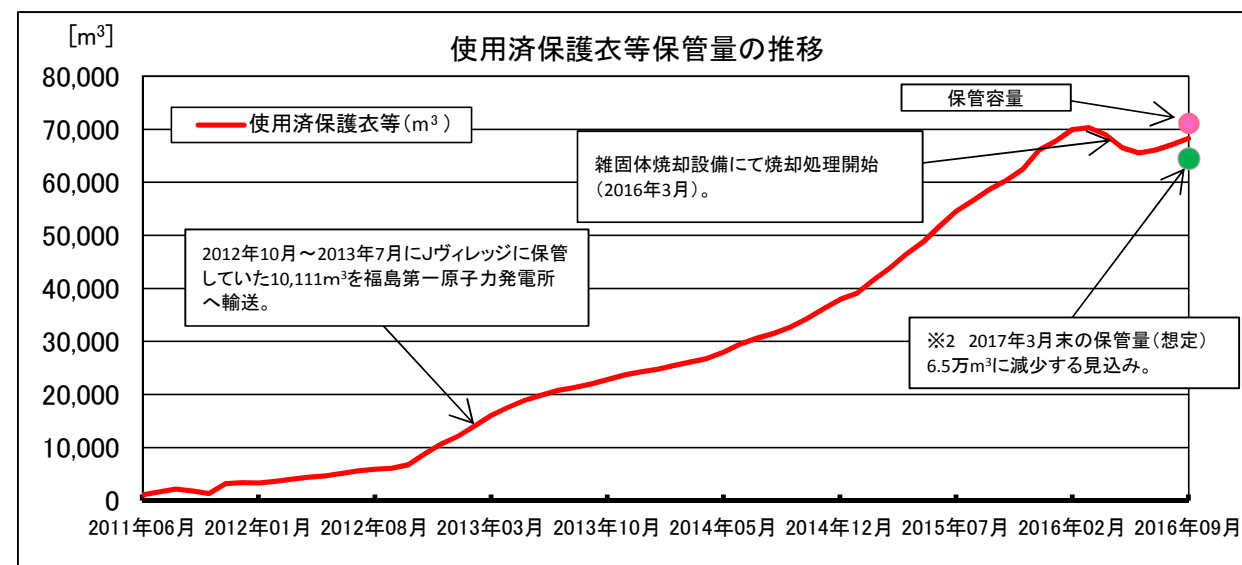
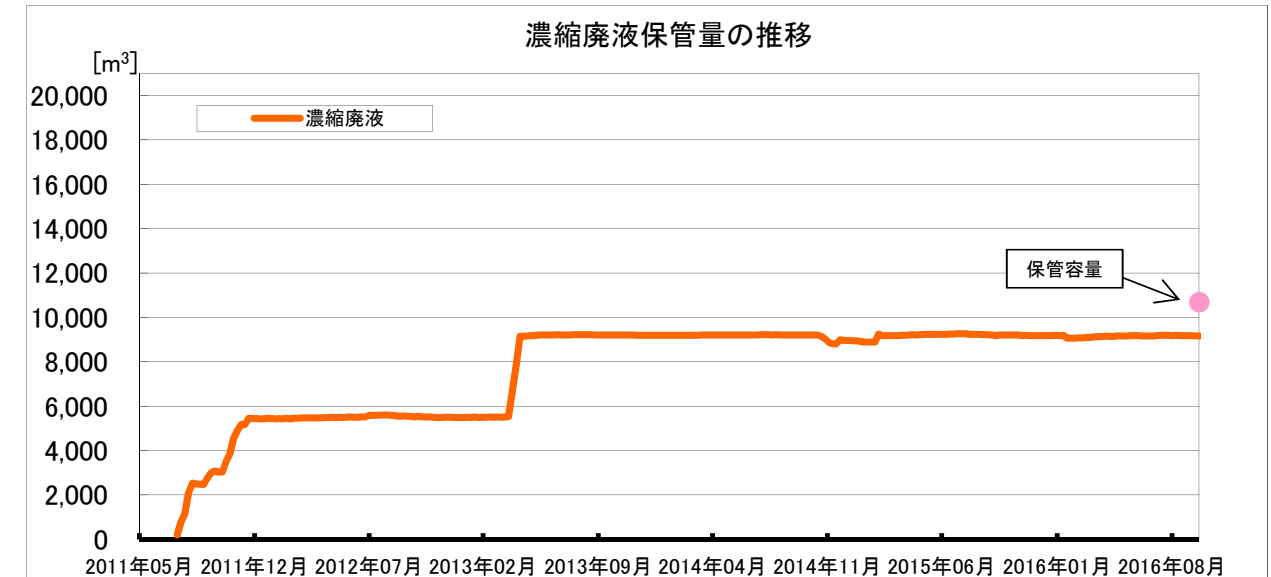
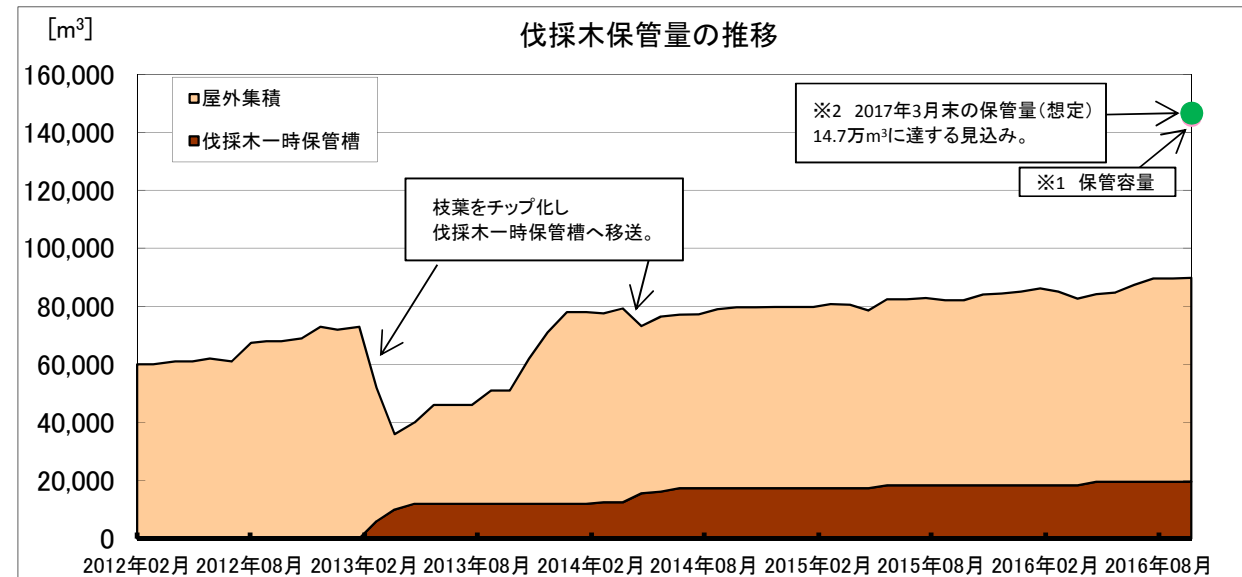
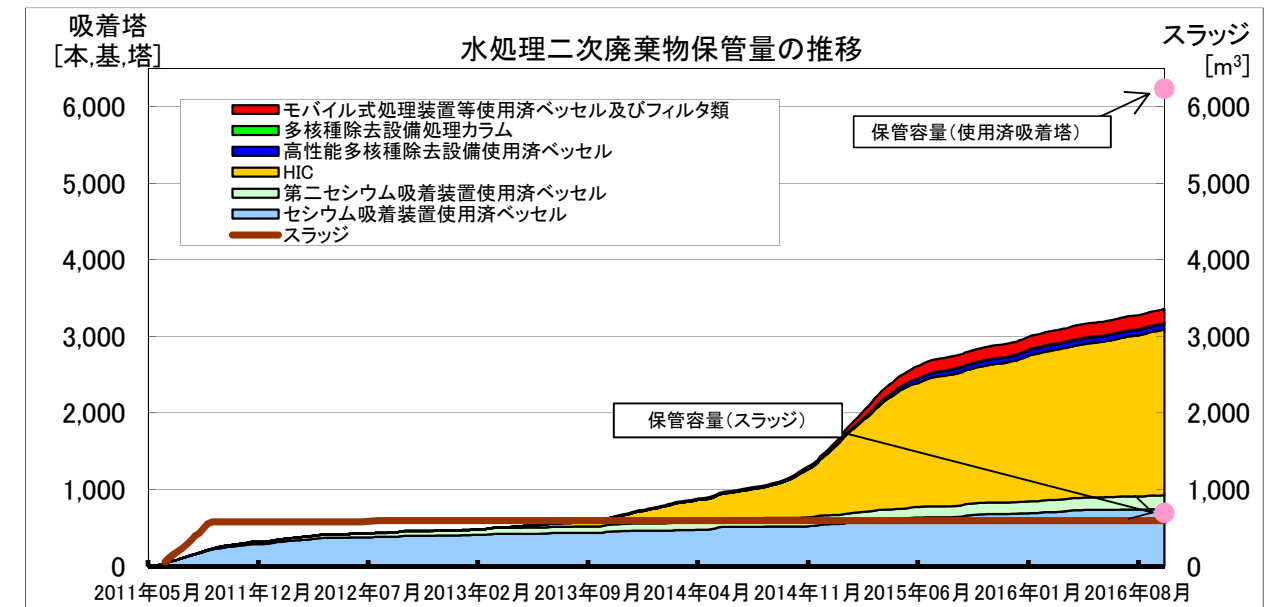
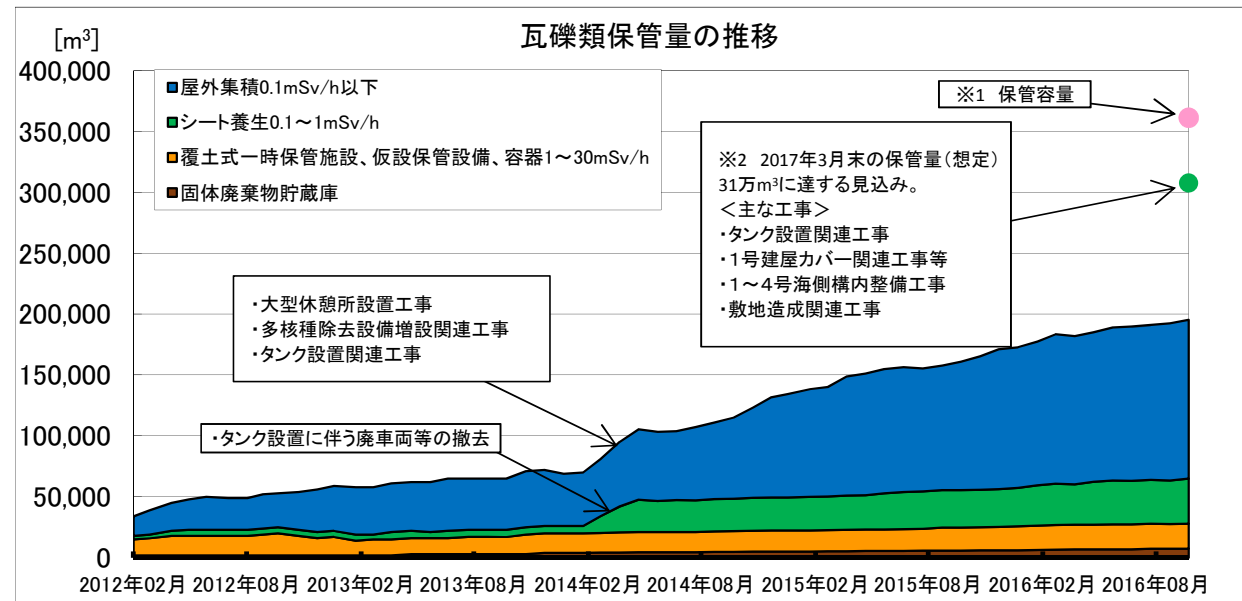
※1 端数処理で100m³未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。
※2 100m³未満を端数処理しており、微増・微減とは100m³未満の増減を示す。
※3 主な変動理由：①焼却対象物の受入 ②タンク設置関連工事 ③1～4号建屋周辺瓦礫撤去関連工事 ④フェーシング工事 ⑤焼却対象物を一時保管エリアPへ移動
⑥エリア整理 ⑦水処理二次廃棄物(小型フィルタ等)の保管 ⑧敷地造成関連工事 ⑨使用済保護衣等の受入
※4 水処理二次廃棄物(小型フィルタ等)を含む。

水処理二次廃棄物の管理状況(2016.10.20時点)

分類	保管場所	種類	保管量	前回報告比 (2016.9.22)	保管量／保管容量 (割合)	トピックス
水処理二次廃棄物	使用済吸着塔 保管施設	セシウム吸着装置使用済ベッセル		754 本	+8 本	3361 / 6239 (54%) ・吸着塔一時保管施設の増容量が認可(2015年12月14日)
		第二セシウム吸着装置使用済ベッセル		176 本	0 本	
		多核種除去設備等保管容器	既設	1,240 基	+22 基	
			増設	923 基	+9 基	
		高性能多核種除去設備使用済ベッセル	高性能	73 本	0 本	
		多核種除去設備処理カラム	既設	9 塔	0 塔	
		モバイル式処理装置等使用済ベッセル及びフィルタ類		186 本	+2 本	
	廃スラッジ 貯蔵施設	廃スラッジ	597 m ³	0 m ³	597 / 700 (85%)	・除染装置の運転計画は無く、新たに廃棄物が増える見込みは無い。 ・準備が整い次第、除染装置の廃止について実施計画の変更申請を行う。
	濃縮廃液タンク	濃縮廃液	9,167 m ³	-22 m ³	9167 / 10700 (86%)	・タンク水位の変動は、計器精度±1%の誤差範囲内。(現場パトロール異常なし) ・保管量に「タンク底部～水位計0%の水量(DS)」を含んでいない。(約100m ³)



瓦礫類・伐採木・水処理二次廃棄物・濃縮廃液・使用済保護衣等の保管量推移



※1 瓦礫類・伐採木の保管容量は、実施計画(2015年7月17日認可)の保管容量を示す。
※2 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の2016年度末の保管量(想定)は、2015年7月の予測値。